



# 柏原三丁目地区への路線バス乗り入れと「バス友」の誕生

西日本鉄道(株) 自動車事業本部  
営業部南営業課 洲脇 祐子  
営業部南営業課 堀江 浩  
営業企画部営業企画課 熊井 強

平成28年度 九州運輸局 地域公共交通優良団体局長表彰 受賞  
平成29年 国土交通省 地域公共交通優良団体大臣表彰 受賞



柏原三丁目住民の発意によって、生活交通確保に向けた検討を開始。継続可能な公共交通を目指し「地域住民」「バス事業者」「行政」の三者が一体となって課題の解決に取り組んだ結果、H26年4月に試行運行、H27年4月に本格運行を実現した。

## 《背景・目的》

### 柏原三丁目地区



地区の悩み

S45年：小高い山を造成し、住宅団地として建設(47年経過)

35歳前後で入居した住民も今や80歳！  
※430世帯/990名が居住  
高齢化率40%(H28.9現在)

標高50mの高台での買い物や通院は困難を極め、コミュニティ交通の必要性を痛感

## 乗り入れ概要



- 便数 平日16便/土曜6便 ※日祝運行なし
- 運賃と所要時間  
松原(営)～北公園前 170円/約10分  
柏原(営)～北公園前 170円/約10分

※最寄のバス停まで600m、高低差約40mと交通不便地であった

## 検討経緯

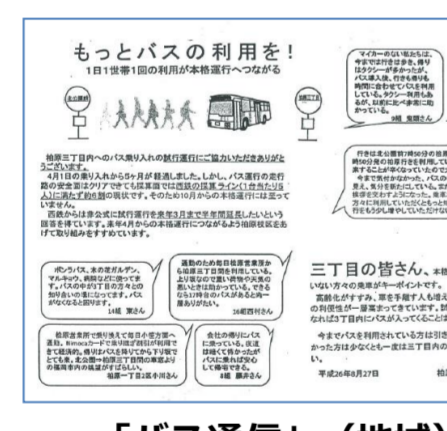
- H13頃～ 柏原三丁目地域住民による「町内バス」検討開始
- H19.8 地域住民による福岡市、西鉄へバス運行に関する要望
- H22.3 福岡市「公共交通空白地等及び移動制約者に係る生活交通の確保に関する条例」制定
- H24.5 柏原校区自治協議会が主体となり「校区コミュニティー検討委員会」を発足
- H25.9 バス乗り入れを前提とした運行試験  
→道路改良、利用促進等の課題を洗い出し、対応
- H26.4 試行運行開始(補助金活用)
- H26.10 試行運行延長(補助金なし)
- H27.4 本格運行開始(補助金なし)

## 《取り組み内容》

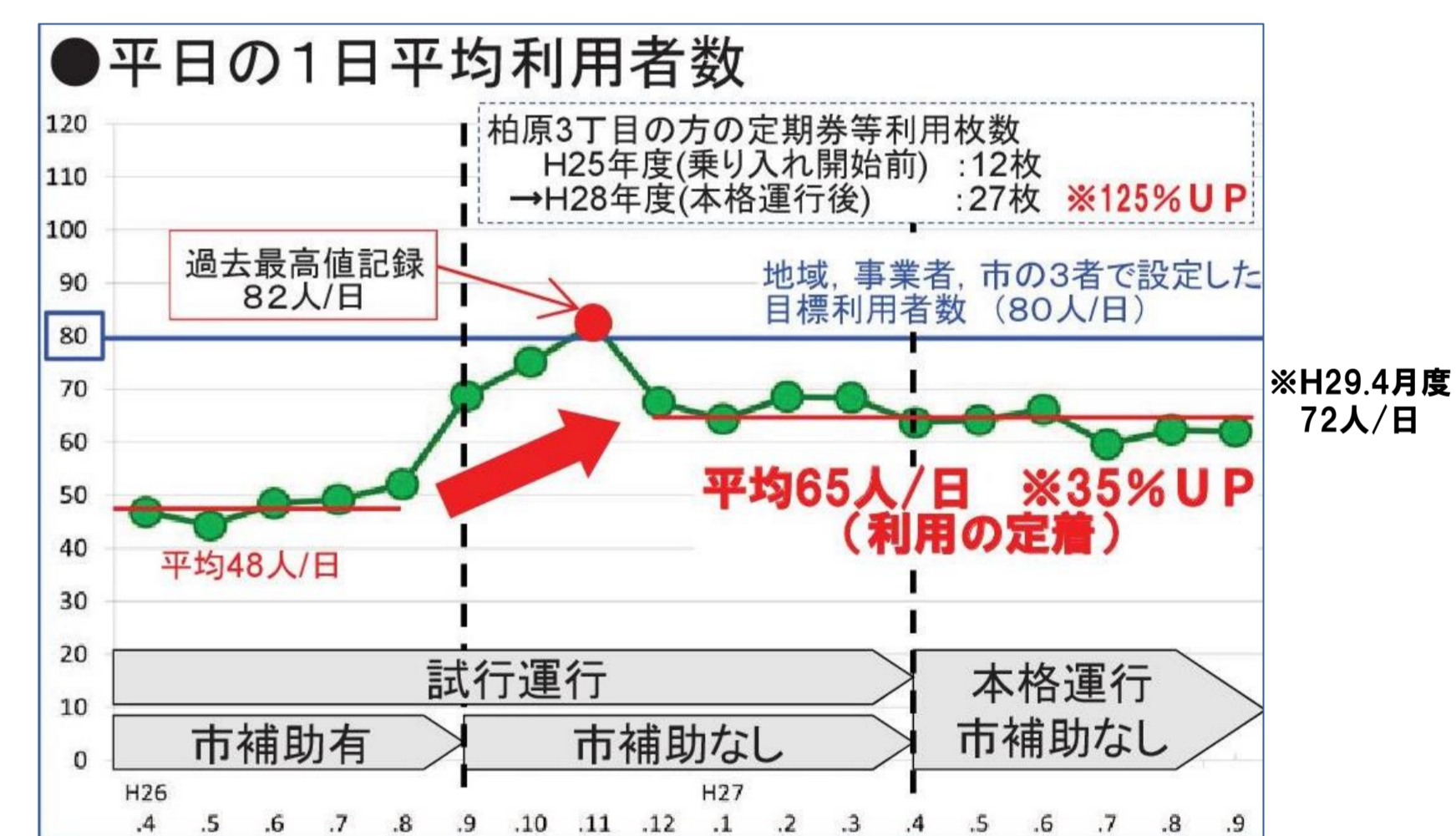
### 地域、事業者、行政 三位一体の取り組み

#### ◆検討～試行運行

- 地域: 利用促進活動(バス通信の発行)、定期集会での利用呼びかけ、ルート上の駐車禁止看板設置
- 事業者: 最適な運行計画の立案(回送バスの営業化)、地域要望を反映したバス停新設
- 行政: 取り組み初動期の財政支援、バス乗り入れに必要な道路改良等



当初は目標人員に到底及ばなかったが、町内会が「決起集会」や「バス通信」による活動を継続することで、利用人員は急増。目標人員を達成し、本格運行を開始した。



#### ◆本格運行後～現在

- 地域: バス友の活動、バス時刻に合わせた公民館行事の設定
- 事業者: 自らによる全戸ポスティング、乗り継ぎ時刻の改正、バスの日イベント
- 行政: 定期的な意見交換会の出席によるアドバイス等

共通の理解のもと、それぞれが汗をかき、相手に過度に依存することなく、できることに懸命に取り組んだ。お互いが顔の見える付き合いをすることで、地域住民の「最適な運行計画」に対する理解が進み、事業者と地域住民の距離も近くなった。

## バス友とは

柏原三丁目エリアに新設された二つのバス停間で、65歳以上路線バス乗り放題定期券「グランドバス65」や福岡市発行の「福祉バス」などを最大限活用して、毎朝バスに乗っている、有志のあつまり

最初は乗降客数を増やすための取り組みだったが...

1. これまで挨拶したこともなかった人と、知り合いになることが出来た。
2. バス停まで毎朝歩くので、足腰が強くなるなど健康状態が良くなった。
3. 日々、お互いの確認・声かけをするようになった。

地域の足(公共交通)を守ろうという情熱が、まちづくり・コミュニティ形成にも波及した。

## 《今後の課題》

- ◎三者で問題意識を共有し続ける (地域・事業者・自治体) ⇒定期的な懇談会の実施
- ◎収益の確保 ⇒地域、事業者: 地域とのコミュニケーション活動による利用者増加、運営の効率化
- ◎実現可能な方法で、利便性向上を図る ⇒運行時刻・便数、運用形態・運行ルート等